

暖かな日が続いていたせいか、気がつくとも早くも師走も1週間過ぎています。2学期もあと少しとなりました。久しぶりの全校研は、諸事情のため1・2年のブロック研修となりました。時間をかけて授業を考え、指導案を作成して下さった濱松先生、低ブロックの先生方にはとても申し訳なく思っています。1・2年での研究を少しでも全体に広げられたらと思います、分かる範囲でまとめてみました。

単元名：「あててね！ほく・わたしの好きなもの」

教材名：「好きなものクイズをしよう」(東京書籍1年下) 研究授業：1年1組 濱松 美枝 教諭

身に付けさせたい資質・能力

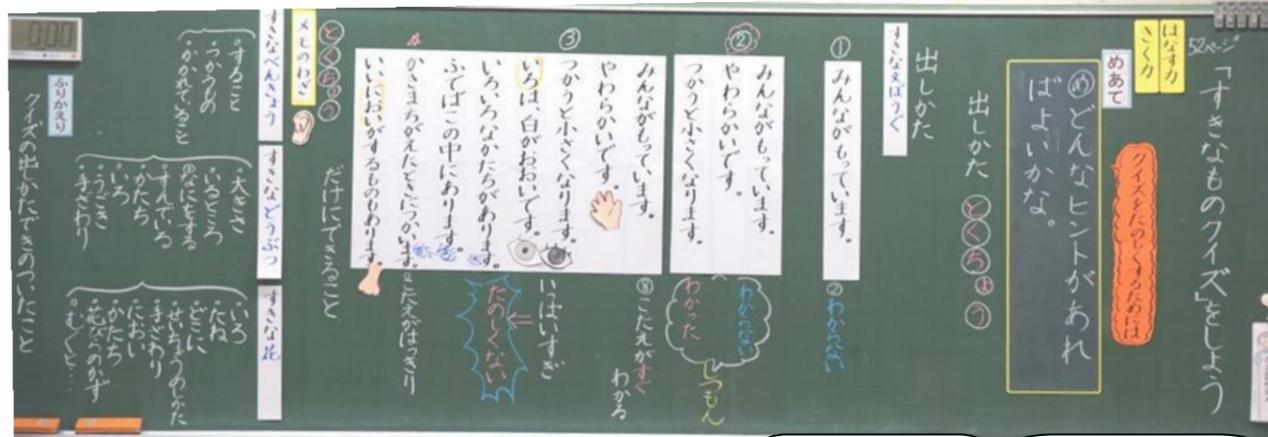
【知・技】(1)ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。

【思・判・表】Aオ 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。

【学びに向かう力】クイズ大会を通して、進んで質問したり答えたりしようとしている。

本時の板書

2/6時



学習の流れ

あててね！  
ほく・わたしの好きなもの  
がくしゅうのながれ(6)

「あててね！好きなものクイズ」大か  
いしよう。

- 1. 学しゅうけいかくをたてよう。
- 2. どんなヒントがいいかな。
- 3. じぶんのクイズのヒントをかんがえよう。
- 4. しつものしかたやこたえかたをしよう。
- 5. れんしゅうしよう。
- 6. クイズたいかいをしよう。  
ふりかえりをしよう。  
はなしをきいてしつもんしたり、こたえたりする力。

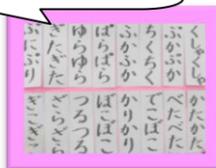
授業者【リフレクションシートより】

資「話す・聞く」の単元を資質・能力ベースの授業にするためには、話す・聞くことを繰り返し経験させることでゴールでは成功できるようにしていくことが大切だと分かった。どんな観点があるのかを考えさせるのではなく、どんな質問をすれば答えが分かるのか出し合うことで観点到気付けさせるようにすればよかった。単元のゴールイメージを持たせる時に、「話す・聞く力」なのでやりとりを実際に見せておくことが観点をを見つける必要性につながるの  
主対深 選んだ理由を自分ことばで発表することができたので、選択肢を与えたり、ノートに書かせたりして発言させていきたい。対話させる時の指示が明確でなかったので、観点を書いている子どもとイメージしたもののヒントを書いている子どもがいた。

見「このヒントがあれば答えが分かる」「とくちょうとは、それだけのできること」というように言葉に着目して考えている姿があった。

どんな好きな物があるのか、何を問題にするのかの手がかりになるものを掲示し

語彙を広げる手立



研究協議より(1・2ブロックの意見)

・育成すべき「資質・能力」を付けるために、最適な言語活動であるか。  
○授業の始めに「付けたい力」を児童と確認し、話す力だけでなく、聞く力もいるので、質問することも大切にしていた。

・単元の目標を達成するための単元計画になっているか。

▼クイズ大会でのやりとりがどんなものか、ゴールイメージをしっかりと持たせておくことが大切だった。クイズは、ヒントを1つ言って質問→答える→質問→答えるというやり方でやっていくということ。

・本時の目標が達成できたか。

○クイズを楽しくするために、どのヒントの出し方がよいのか、どんなことをヒントにしたらいのか理解できていた。

○3つのヒントモデルが出た際に、1つ目と3つ目のヒントを選んだ子から聞き、2つ目のヒントを選んだ子どもの意見を最後に取り上げたのがよかった。

▼ヒントの観点の書かせ方では、具体的なものを想定して書かせたらよかったのではないか。

▼ヒントを考える際、一般化するのは難しかったのではないか。何を書けばよいのか発問が少し分かりにくかった。→必要感を持たせてヒントを考えさせることが大切。

・「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は成立していたか。それはどんな事実からか。

○クイズを楽しく行うために、意欲的に考えようとしていた。児童がとても楽しそうにしている、早くクイズ大会をしたいという意欲が見えた。

○どのヒントの出し方がよいのか自分で答えをノートに書くことで、わけを一人一人いうことができた。

○自分の考えを一生懸命伝えたい気持ちにあふれていた。⇔協調性につながるようになっていくことも大切。

・言葉による見方・考え方を働かせた児童の姿は見られたか。

○モデルのヒントの内容から、必要な事柄を選んでいる児童がいた。

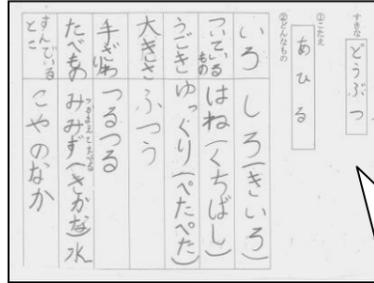
○どんなことをヒントにしたらいのかを考える際、「消しゴムだけにできること」と特長に目を向けた考えに気付いた児童がいた。

○友達の発表を聞いて、考えをつなげようとしている児童も見られた。



宗崎指導主事より

「話す・聞く」の領域の場合、授業の中で何回も「話す・聞く」ことを実際にさせることが大切である。導入では、どんなクイズ大会なのかやって見せ、ゴールイメージを明確にする必要がある。話すだけでなく質問する方も聞き上手になり、自分が必要な情報を聞けるようにし、問題を出す方も必要感を持ってヒントを考えておくことが大切である。今回のような単元では、試す→失敗→試す→失敗→試すというようなスパイラルな単元計画がよい。



児童のワークシート：  
いくつかヒントを考えておくことで、すぐ当てられずに最後に当ててもらえるように、どのヒントから言えば楽しくできるのか、考えていま

- 一児童を本気にさせる スパイラルな単元計画一
- 1: ゴールを示す・計画を立てる
  - 2: やってみる(→できない)
  - 3: 質問の仕方を学ぶ(教科書で学ぶ)
  - 4: ちがう人でやってみる(→上手くできない・できる)
  - 5: 上手くできた方法を聞く・学ぶ
  - 6: 問題を作ってNewクイズ大会(→成功)

今回は、低ブロックの先生方のリフレクションシートや模造紙の付箋、今城先生の記録などを頼りにまとめました。来週の水曜日は同じく、1年生の国語の授業研です。今年度最後の全校研になります。今城先生よろしくお願ひします。